

上海体育学院との学術交流を通して

A visitor's report on academic exchange with Shanghai University of Sports

茂木康嘉

Yasuyoshi Mogi

早稲田大学大学院スポーツ科学研究科

Graduate School of Sport Sciences, Waseda University

スポーツ科学研究, 7, 132-133, 2010年, 受付日:2010年12月25日, 受理日:2010年12月25日

2010年11月5日(金)から2010年11月8日(月)まで、早稲田大学グローバルCOEプログラム“アクティブ・ライフを創出するスポーツ科学”と箇所間協定を締結した上海体育学院に訪問した。今回の学術交流の目的は、GCOE登録学生の研究・教育基盤形成の促進および相互交流を通じて双方の研究活動を更に推進させていくことであつた。

学術交流1日目は、上海体育学院の修士課程に所属している学生とともに、学内の各施設を見学しながら交流を深めた。始めに、学内の武術博物館を見学し、中国の体育史に触れた。その後、研究施設・体育施設を巡った。両施設とも、設備がとても充実しており、全天候型陸上競技場が屋内外合わせて3面も設置されていたことや実験室に三次元動作解析用のカメラが多数設置されていたことには非常に驚かされた。

学術交流2日目は、「4th Shanghai International Forum on Exercise and Health」に学会参加し、各国の招待演者の講演を聴講した。その中でも、我々がGCOEプログラムのプロジェクトI“子ども体力低下抑止と健全育成促進”で所沢市の小中学生を対象に行っているような調査を香港にて都市をあげて行っているという内容は特に興味を引かれた。また、同発表にて「現時点では、子どもの身体活動量に関する実態調査段階であるが今後、生理学等の様々な視点から子

どもの健全育成についてアプローチして行きたい」と述べられており、もし機会があるのであれば将来私自身もそのプロジェクトに参加出来ればなどと思いを馳せた。日本からは、鹿屋体育大学学長の福永哲夫先生や早稲田大学教授である樋口満先生が大会に招待されており、高齢者の貯筋運動(ライフフィットネス)に関する内容を福永先生が、ローイングトレーニングが高齢者の体力に及ぼす効果について樋口先生がそれぞれ講演された。

夜は、レセプションパーティーが催され、上海体育学院の教授や初日に学内を案内してくれた学生らとさらに交流を深めた。また、福永先生とお話することができ、私自身が現在取り組んでいる研究に対して叱咤激励を受け、今後の研究活動に対して改めて意欲が高まった。

学術交流3日目は、早稲田大学GCOE博士登録学生5名と上海体育学院の大学院生5名による研究発表会が行われた。現地学生は、運動時の活性酸素の発生防止に関する研究など今まで自身がほとんど触れたことのない研究テーマからスポーツシューズの衝撃緩衝作用に関する研究、肩傷害のリハビリに関する研究など自身の研究室内でも取り組まれているような研究テーマまで多岐に渡って発表がされ、よい刺激を受けた。

一方、私事ではあるが、英語を使用した口頭

発表は初めての経験であった。いささか緊張していたが、発表練習の成果を十分に発揮することが出来たのではないかと思う。

末尾に、今回の学術交流を通して、現地の大学院生と交流を深めたり、英語での口頭発表を行ったことは自分にとって非常に価値のある経験ができたと感じる。今回の経験を今後の研究活動に生かすことができるように、実験、データの吟味、

そして論文の作成とますます精進していこうと思う。

最後に、今回の学術交流の引率を下さった曹振波先生には、心より感謝致します。何事もなく無事に学術交流を終えることが出来たのも曹振波先生のおかげです。本当に有難うございました。



写真 1 研究発表会の様子



写真 2 研究発表会後の記念撮影